

平成23年 行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	各国アカデミーとの交流等の国際的な活動		担当部局庁	日本学術会議事務局		作成責任者	渡部良一	
事業開始・終了(予定)年度	-		担当課室	参事官(国際業務担当)				
会計区分	一般会計		施策名	20-② 各国アカデミーとの交流等の国際的な活動				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	日本学術会議法		関係する計画、通知 等	-				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	日本学術会議法第2条に基づき、わが国の科学者の内外に対する代表機関(全国約84万人の科学者の代表として選出された会員210名と連携会員約2,000名で構成)として、政策決定者に対して、科学者としての専門的かつ信頼性のある勧告等を行うことで、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	科学的知見が世界の政策形成に反映されるよう、G8各国等の科学アカデミーと連携して、G8サミットの議題に関し科学的立場から意見を集約し、共同声明を発出するほか、国内学術研究団体との共同主催国際会議や持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題を議論する国際会議の開催、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するために設立されたアジア学術会議に関連する活動、国際学術団体への加入、国際学術団体総会等への代表派遣などを通じ、国際学術団体との連携を図っている。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予 算 の 状 況		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		当初予算	331	304	286	234	204	
		補正予算	0	0	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	331	304	286	234	204	
		執行額	300	245	244			
	執行率(%)	91%	81%	85%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	各国アカデミーとの連携等 ・G8学術会議共同声明の発出		成果実績	回	1	1	1	-
			達成度	%	100	100	100	
	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	各国アカデミーとの連携等 ・アジア学術会議の開催		成果実績	回	1	1	1	-
			達成度	%	100	100	100	
	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	各国アカデミーとの連携等 ・二国間学術交流		成果実績	回	2	2	2	-
			達成度	%	100	100	100	
	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	国際学術団体等への貢献 ・ICSU(国際学術会議)、インターアカデミーパ ネル等への対応		成果実績	回	2	2	2	-
			達成度	%	100	100	100	
成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)	
国際学術団体等への貢献 ・その他の国際学術団体等への代表派遣等		成果実績	回	23	25	19	-	
		達成度	%	96	100	95		
成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)	
共同主催国際会議の開催		成果実績	回	8	7	7	-	
		達成度	%	100	100	100		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	アジア学術会議の参加人数		活動実績 (当初見込み)	人	約190	約200	約230 (約230)	- (約390)
	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	国際学術団体等への代表派遣人数		活動実績 (当初見込み)	人	38	36	30 (31)	- (37)
活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
共同主催国際会議の参加人数		活動実績 (当初見込み)	人	約13,000	約14,000	約12,000 (約12,000)	- (約14,000)	
単位当たり コスト	(円/)			算出根拠				
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	委員手当	1	1					
	会員手当	1	1					
	諸謝金	0	0					
	職員旅費	6	8					
	委員等旅費	40	43					
	外国人招へい旅費	13	12					
	国際学術会議開催庁費	79	48					
	招へい外国人滞在費	3	3					
	国際学術連合会議等分担金	91	87					
計	234	204						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>【成果指標の検証】</p> <p>○成果指標「G8学術共同声明の発出1回」については、G8各国等のアカデミーと共同で、共同声明「母子の健康の促進」及び「開発のためのイノベーション」を取りまとめ、各国首脳宛てに発出した(平成22年5月27日日本学術会議会長より内閣総理大臣に手交)。</p> <p>○測定指標「アジア学術会議の開催1回」については、平成22年6月14日～16日に、「アジア太平洋地域の健康問題への対応」をテーマにフィリピンで開催され、アジア域内での学術交流を図った。(アジア学術会議は、平成23年5月現在19の学術機関・省庁・研究機関によって構成されている。)</p> <p>○成果指標「二国間学術交流」については、平成22年11月にカンボジア、12月にはバングラデシュの学術機関等との会合を開催し、発展途上国における学術研究体制の実態を把握するとともに、当該国における学術の発展を図る上で、必要な意見交換や情報提供活動を行った。</p> <p>○成果指標「ICSU、IAP等への対応」については、日本学術会議から代表を派遣し、総会等に参加する等必要な対応を行うとともに、インターアカデミーカウンシル(IAC(母体:IAP))の活動では、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)からの依頼に基づく報告書がとりまとめられたことを受け、平成22年9月に会長談話「気候変動に関する政府間パネルのプロセス及び手続に関する検証について」を発出した。</p> <p>○成果指標「国際学術団体等への代表派遣等」については、国際学術団体(45団体)に加入し、各団体の総会、理事会等へ日本学術会議会員を派遣して、各国の科学者との連携を強化させ、科学に関する研究能率の向上を図った。</p> <p>○成果指標「共同主催国際会議の開催」については、平成22年度は第21回IUPAC化学熱力学国際会議を始め7回の国際会議を開催し、学術研究の発展や研究者間のネットワーク構築等に貢献した。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、地球規模の課題に対して、各国の科学者と連携して、科学的知見に基づく提言を戦略的に発出するなど、国際的な学術団体の活動へ積極的に参画貢献し、我が国を代表して科学者の国際協力体制を構築することを推進していく。</p> <p>【執行状況・資金の流れ】</p> <p>日本学術会議会員、連携会員等に支払う手当及び旅費について関係法令に基づき各個人に適切に支給している。</p> <p>国際会議の開催に必要な経費については、原則として一般競争入札を行い、入札が困難な契約については随意契約審査委員会を開催し承認を得たうえで随意契約を行っている。また、職員が会場に行くなどの受注業者に対する指導・監督を行える体制をとっており、予算の支出先・使途の把握については、十分な水準になっている。</p> <p>国際分担金(45団体)についても、各国際学術団体との約款等に従い分担金を支出しているが、各団体の総会などに日本学術会議会員及び連携会員が出席し運営状況の確認などの把握も行っている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>国際学術団体への加入・代表派遣など国際活動については、その必要性・選定理由を明確化するとともに、事業効果(研究能率の向上)を具体的に説明すべき。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>国際学術団体への加入・代表派遣など国際活動については、国際委員会において適宜見直しを行っており、加入国際学術団体に対応する委員会等が報告書を作成し、HPを通じて外部に公開することにより、その活動内容・必要性・事業効果等を明確にしていく。</p>			
補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

日本学会議事務局参事官
(国際業務担当)
244百万円

(共同主催国際会議の開催に必要な経費等)

→【一般競争入札】

A. (株)ステージ
4.1百万円

(国際シンポジウム(持続)支援業務)

B. 富士ゼロックス(株)
3.2百万円

(デジタル複合機保守)

C.(財)青少年国際交流推進センター
2.5百万円

(国際シンポジウム(持続)支援業務)

D. (株)アーバン・コネクションズ
1.0百万円

(「大学教育の分野別質保証の在り方について」の英訳業務)

→【随意契約(公募)】

E. ホテル金沢(株)
3.2百万円

(国際会議の会場借料)

→【随意契約(特命)】

F. 民間企業(7社)
64.4百万円

(共同主催国際会議の会場借料)

→【随意契約(少額)】

G. 民間企業(4社)
0.6百万円

(国際会議の資料等印刷業務)

H. ホテル金沢(株)
0.5百万円

(国際会議の飲料提供業務)

I. (財)神戸新聞文化財団
0.2百万円

(国際会議の会場借料)

→【分担金:直轄】

J. 国際学術団体(45団体)
102百万円

(国際学術団体の活動に必要な経費)

→【旅費・手当:直接】

K. 会員・連携会員等(291人)
62.3百万円

(会員・連携会員等の旅費・手当)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

(注) 計数は原則四捨五入によっているため、資金の流れ別紙の合計とは合致しないものがある。

A.(株)ステージ			E.ホテル金沢(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	会議開催経費(会場運営費)	4.1	借料及び損料	会議開催経費(会場借料)	1.2
計		4	計		1
B.富士ゼロックス(株)			F.民間企業(7社)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	複写機保守	3.2	借料及び損料	会議開催経費(会場借料)	1.2
計		3	計		1
C.(財)青少年国際交流推進センター					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
借料及び損料	会議開催経費(会場借料)	1.2			
雑役務費	会議開催経費(手数料等)	0.8			
雑役務費	会議開催経費(レセプション経費)	0.5			
計		3	計		0
D.(株)アーバン・コネクションズ					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
その他	翻訳業務(英訳)	1			
計		1	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。使
 途と費目の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ステージ	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2010」に関する支援業務	4.1	6	80.9

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	富士ゼロックス(株)	デジタル複合機保守料	3.2	1	97.9

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)青少年国際交流推進センター	「第10回アジア学術会議」に関する支援業務	2.5	5	96.7

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)アーバン・コネクションズ	「大学教育の分野別質保証の在り方について」の英訳業務	1	3	65.7

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ホテル金沢(株)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2010会場借料等及び料飲提要	3.2	随意契約	-

F.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)神戸ポートピアホテル	第14回国際免疫学会議会場借料	21.7	随意契約	-
2	(財)神戸国際観光コンベンション協会	第14回国際免疫学会議会場借料	9.9	随意契約	-
3	(株)神戸ポートピアホテル	第29回国際臨床神経生理学会会場借料	9.5	随意契約	-
4	(財)国立京都国際会館	第1回世界加速器会議会場借料	8	随意契約	-
5	(財)茨城県科学技術振興財団	第21回IUPAC化学熱力学国際会議会場借料	4.3	随意契約	-
6	(財)国立京都国際会館	第7回国際整形外科基礎学術集會会場借料	4.3	随意契約	-
7	(財)神戸国際観光コンベンション協会	第29回国際臨床神経生理学会会場借料	4.2	随意契約	-
8	国立大学法人京都大学	第23回国際霊長類学会大会会場借料	2.4	随意契約	-

G.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)双文社	アジア学術会議(2010-2011)パンフレット等の印刷	0.3	随意契約	-
2	(株)キタジマ	G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明リーフレットの印刷	0.1	随意契約	-
3	(株)日新社	共同主催国際会議実施要領の印刷	0.1	随意契約	-
4	(株)太陽美術	グリーティングカードの印刷	0.1	随意契約	-

H.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ホテル金沢(株)	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2010」における料飲提供	0.5	随意契約	-

I.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)神戸新聞文化財団	「第29回国際臨床神経生理学会市民公開講座」会場借料	0.2	随意契約	-

J.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	INTERNATIONAL COUNCIL FOR	国際学術連合会議(ICSU)	27.6	随意契約	
2	INTERNATIONAL ASTRONOMICAL UNION	国際天文学連合(IAU)	7.2	随意契約	
3	INTERNATIONAL UNION OF PURE AND APPLIED	国際純正・応用化学連合(IUPAC)	6.4	随意契約	
4	INTERNATIONAL UNION OF BIOLOGICAL	国際生物科学連合(IUBS)	6	随意契約	
5	INTERNATIONAL UNION OF GEOLOGICAL	国際地質科学連合(IUGS)	3.8	随意契約	
6	CODATA	科学技術データ委員会(CODATA)	3.7	随意契約	
7	INTERNATIONAL UNION OF PURE AND APPLIED	国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)	3.7	随意契約	
8	WORLD METEOROLOGICAL	気候変動国際協同研究計画(WCRP)	3.5	随意契約	
9	SCIENTIFIC COMMITTEE ON	海洋研究科学委員会(SCOR)	3.5	随意契約	
10	INTERNATIONAL UNION OF GEODESY AND	国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)	3.4	随意契約	

K.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A				
2	個人B				
3	個人C				
4	個人D				
5	個人E				
6	個人F				
7	個人G				
8	個人H				
9	個人I				
10	個人J				